創ろう!!
移住後の田舎暮らしを支えるネットワーク

きよさと移住者ネット［北海道清里町］

団体設立の経緯

近年、「人生の楽園」を求めて田舎暮らしがしたいと思う方の増加と、それに伴い移住推進事業をしている自治体や民間の組織が増えています。しかし、安易な農家の嫁募集、単なる物件紹介など、来てもらったらそれで終わり、というだけでは定住にはつながりません。現実問題として、新しい家族や地域の人々に馴染めずに家にこもりがちになることがあります。その結果、孤立し、精神的に疲労し、自身の人生設計や田舎暮らしそのものに疑問を感じ、離町されたケースも多く生じています。私たち移住者も同じような思いをしてきました。
同じような境遇を経験してきた人とコミュニケーションがとれる場、悩みを共有し問題の解決方法を一緒に考える仲間が必要です。
そこで、新たに清里町に移住したいと来られた方が、元気で楽しく暮らせる術を見出せるようにしたいという思いで老若男女、移住歴を問わない移住者のネットワークを作ろうと考えました。そのためには私たち移住者自身が元気で楽しく暮らすことも必要です。急速に過疎化が進む清里町の政策とも方向性が一致し、平成25年には町の助成金も受け団体を設立することが出来ました。

地域概要

清里町は北海道の東部の知床の付け根に位置し、人口は約4,400人。人口減少が進んでいる地域です。オホーツク海も近く、冬には流氷が観られます。日本百名山の一つである斜里岳は道東のマッターホルンとも呼ばれています。水が豊富で斜里川には、幻の大魚イトウが生息しています。そして観光名所の摩周湖があり、青緑色の水面の神の子池があります。さくらの滝では初夏にサクラマスが遡上する姿が観られます。農業が盛んで馬鈴薯、小麦、甜菜の三作が主に生産されています。特産品は日本で初めて作られた『じゃがいも焼酎』です。町で育てた馬鈴薯を原料にしています。
「花と緑と交流のまち」をコンセプトとして、行政と住民のパートナーシップによりまちづくりが進められ、6月から8月にかけて大地には作物のパッチワーク模様が、町中には鮮やかな美しい花がみられます。
また交流活動が盛んで、地元の小学校では山村留学を、高校ではニュージーランドの高校と姉妹校提携をしており、ニュージーランドへの研修旅行をはじめ、両校生徒の交換留学制度もあります。

設立年月 ･･･ 平成 25 年 6 月
メンバー数 ･･･ 運営メンバー　5 名／参加メンバー　23 名
代表者名 ･･･ 澤田 眞優美（さわだ・まゆみ）
連絡先 ･･･ 〒099-4401　北海道斜里郡清里町上斜里 40 番地
団体のミッション ･･･ 移住者の心のキーパー的存在、移住希望者のコーディネーター的存在として、地域の人々や関係機関と連携しながら、一人でも多くの方に清里町に住んでいて良かったと思ってもらえるようにサポート活動を行っています。

この地域のシンボル、斜里岳。

活動に至った理由や背景

私たち会員は清里町に移住してきましたが、他の移住者と繋がりがもてない状況でした。親戚や知人もいない中で知り合いを作る機会がなかなかもてませんでした。農業中心の地域なので転入する人が少なく、ほとんどが昔から住んでいる人です。家と家との間は歩いて10分、または車で5分以上かかる場合もあります。

この様な地域で、最初は本州から来た私たちのような農家の嫁のネットワークを創ろうと思いました。同じような悩みを抱えている方々の交流を図ることが必要だと感じたからです。ですが、この地域で暮らし、子育てをしていく中で、農家の嫁だけではなくて様々な理由で移住してきた方々がいることを知りました。そしていろいろな職種の方がいるので、情報を共有すればもっと楽しく暮らせるのではないかと思いました。

様々な活動を通して、よそ者扱いされがちな移住者同士がポジティブに暮らしていける場があればいいなと思いました。昔から住んでいる地元住民とも繋がることにより、地域の生活文化を大切にしながら新たなコミュニティが創造される事が期待できます。

今年度は以前からしてみたかった事、できなかった事が助成を受けたことで行うことができ、また更なる提案への目安にもなりました。私たち農家のお母さんにできるかな？と不安がありましたが、企画に沿った活動を通してイベント実施、人間関係づくり、そして地域の繋がりを創出することができました。

活動の内容と成果

6月

グランフォンド きよさとに参加

清里町の広大な自然風景を観ながら、地元産の食材を使った食べ物をポイント場所で食べ、自然の中を走るサイクリングイベントです。初心者から上級までの4種類のコースがあります。参加人数を増やし活性化になればという思いで、移住者ネットで協力しました。山村留学で来ている親子や、50代男性で移住体験のため参加された方もいます。清里町長自らもこのイベントのママチャリレースに参加されたので、気軽に町長と清里町の風景や暮らしを語り合うことができました。

7月

産後ケア・アロマ講座

町外から講師を招いてアロマ講座を行いました。

産後ケアを一緒にしてもらおうと、移住者ネットの会員以外の方にも参加してもらう企画にしました。小さなお子様連れの母親がイベントに参加するには、子供の託児が必要になります。特に町外から来られたお嫁さんは、実家に子供を預けて自分の時間を楽しむ機会がありません。産後にストレスが溜まるばかりです。そして孤立するという悪循環に陥ります。そこで託児を地元住民で頼れるおばさんに相談しました。するとすぐに子育て支援ファミリーサポートと繋がりができ、町民の年配のご婦人達に協力して頂けるようになりました。今後は移住者ネットの託児を、斡旋を相談した頼れるおばさんが引き受けてくれることになりました。

託児があったので母親達は集中して講座を受け、楽しむことができました。今回は、参加したいけれど託児が無いので参加できない、という小さなお子様がいる世代の母親たちのニーズに、応えることができました。

8月

地元産で作る カレー懇親会

町の施設を利用して行いました。

カレーは地元産の玉ねぎと牛肉を使用しました。昨年は、お子様連れで参加した方が十分にお話することが出来なかったという反省から、今年は、調理をしている時にだけ託児をお願いしました。カレーなら色々な野菜が使え、誰でも料理が出来、食べやすいメニューなので行って良かったです。

清里町で約10年前に移住者の集まりがあったのですが、その後無くなってしまい、移住者同

上:清里町サイクリングイベント（グランフォンド）
中:産後ケア・アロマ口座
下:町内の方の協力による託児模様

士の繋がりが弱く、情報が少なくなっていました。昨年、会を立ち上げた時に町内で10年ぶりに移住してきた方の集まりを催しました。その時も作って食べるカレー懇親会でしたので、これからも定期的に集まって地元産の野菜を知って貰える機会にしていこうと思います。物を作りながら交流を図るのは気軽に話せて楽しい！ですし、食べて美味しい！です。

9月

清里町ふるさと産業祭り

町で一番大きなイベントで、清里町の特産・名産品が販売され、町の飲食店や団体の店が並びます。会員で青森出身のご夫婦の提案で、B-1グランプリで有名な『せんべい汁』を作り販売しました。また会員の方の出身地の美味しい食べ物のお取り寄せ、会員の作った農作物や雑貨も販売しました。

前日からブース準備や食材準備などを手伝える人で行い、一緒にものづくりをする事で親睦を深めることが出来ました。ものを販売することで、知らなかった方とお知り合いになれたり、移住してきた方を支える団体、「きよさと移住者ネット」があるという事を町民の方に知ってもらういい機会になりました。

斜里岳登山

毎日見ている秀峰1,547mの斜里岳。

住んでいても意外と登山したことがないということで「清里町へせっかく来たのだから斜里岳に登ろう！」と企画しました。初心者でも安心して登山が出来るようにガイド付きにしました。
当日は小雨で4名が欠席になりましたが、参加した5名は無事に登頂出来ました。
自然にふれあい斜里岳に魅せられ、山登りにはまった会員もいました。

町のイベントで東北の特産品「せんべい汁」を作って販売。地元住民と他府県のグルメで文化交流を図る。
10時から販売して約2時間で完売！

左:斜里岳山頂で記念写真
中・右:四季の風景を魅了する斜里岳

スキップロードフェスティバル

清里町のマラソン大会（斜里岳ロードレース）前日に行われる商工会主催のイベントです。

今年の出店の条件は地場産小麦を使った料理でした。
会員から「冬の懇親会で作ったたこ焼きを出してみよう！」と提案があり企画を進めました。たこ焼き器を購入し、会員の子供達も一緒に作り販売しました。

また町民の方に少しでも地場産小麦に興味を持ってもらい消費してほしいと思い、会員の農業改良普及センター職員の方に清里町の小麦の事を教えてもらい、小麦の資料を紹介しました。

今まで移住者ネットの会員が個人で出店していましたが、今年は「移住者ネット」のPR、会員のお店の紹介などをチラシやパネルを使って行いました。お客様の中で他府県から来た方がいらっしゃって、「清里町に移住したいがどうでしょうか？」と聞かれる方もいました。清里町の良いところを伝え、「きよさと移住者ネットではいつでもウエルカムです。」と答えました。

親子ダンスイベント（POTATOPARTY）

今年度の企画案を出していた若いママさんが、出産で参加出来なくなりました。

別の若いママさんが、今後のまちづくりに向けてチャレンジしたいと提案した親子ダンスのテストイベントです。

町内の大きなホールを利用して、きよさと移住者ネットだけではなく、町をひっくるめた親子（未就学児）対象のイベントとして企画し、教育委員会も後援してくれました。始めは提案した本人に自信がなく、「無理かな…」といっていましたが、企画・準備を進めて行く中で母親達の結束力と女子的思考が全開し、また先輩ママ達のアドバイスなどにより前向きな気持ちになって実施したことで、達成感を得られたようです。

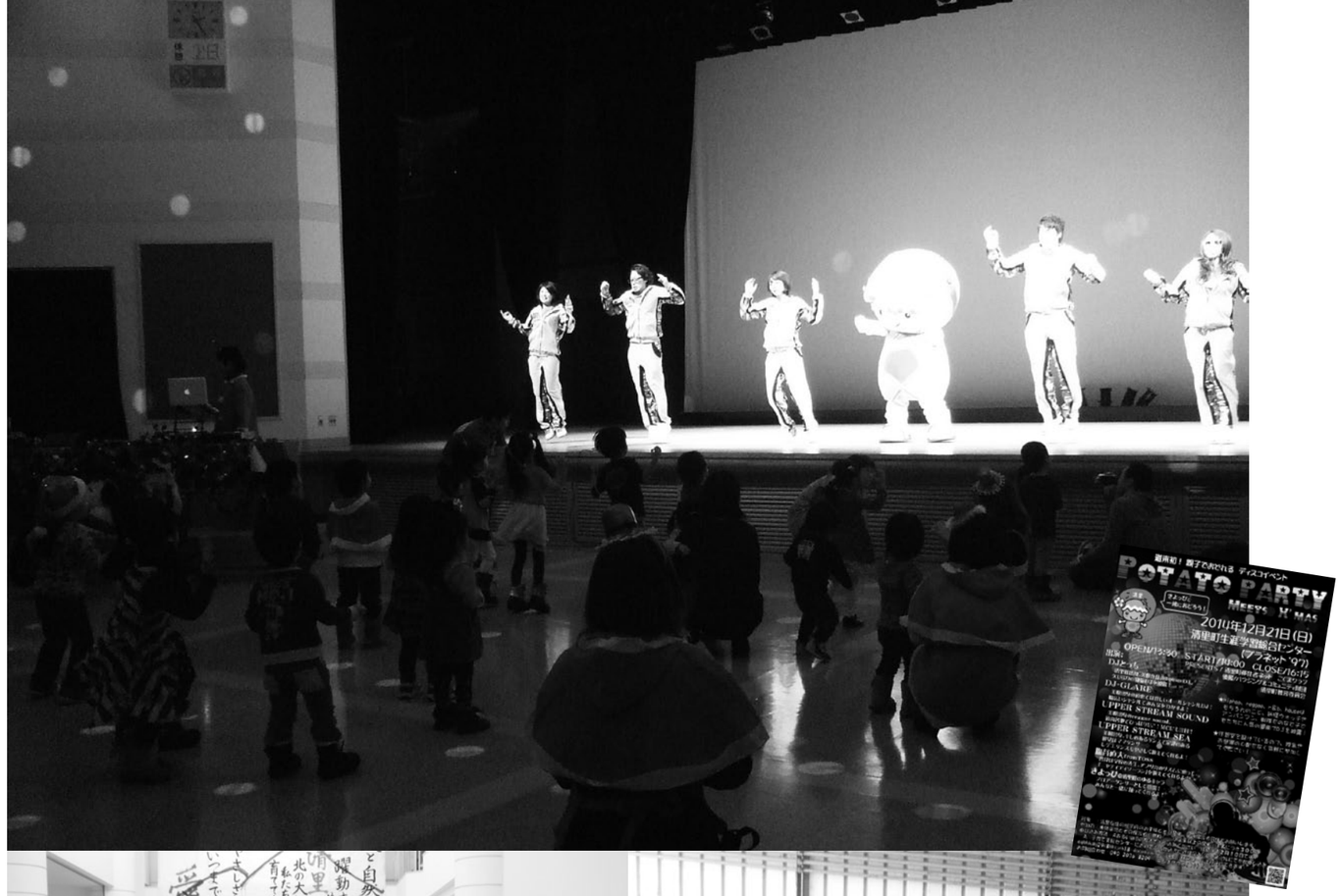
提案・企画した若いママがDJでもあり、道内在住の清里町出身の知人DJが来られ、近隣の町のダンサーも応援で来られました。町内のまちづくり団体「ゆいま～る清里」による妖怪ウォッチダンス、町のゆるキャラ「きよっぴー」と踊るダンスタイムがありました。清里高校ユネスコ部は仮装をして子供達の安全管理と盛り上げの役割で協力してくれました。イベント時間が3時間もあるので自由な空間を確保し、プレイルーム、授乳室を設け、町内の六次産業化実践者にお願いをして出店の協力をしてもらいました。時期的にクリスマスが近かったので元清里高校校長で定住された方にサンタクロースになって頂き、子供達にお菓子のプレゼントをしてもらうサプライズな場面づくりもしました。

企画に携わった方の提案で、来られなかった方や町内の方にお知らせするために、イベントの様子を掲載したポスターを、イベント終了後すみやかに町内のお店や公共施設に貼りました。会だけのイベントではなく、町民の方に協力をして頂き、また応援して頂いた事により構想していたものより盛大に楽しく出来ました。やってみたいと思ったことを提案する際の目安を見つけることが出来ました。

1月

清里町箱ものツアー

住んでいても意外と知らない地元のお宿。移住者ネット関係の家族や知人が来た時に利用できるのではないか、宣伝効果になるのではと企画しました。宿泊しないとみられない室内を交渉して特別に見せてもらいました。
また、行政の出前講座を利用しゴミ焼却場を見学しました。移動バスの中では清里町開拓時代の歴史ビデオを観ました。本州から隣の小清水町にきた農家のお嫁さんの団体『はるな会』の会長が、清里の移住者ネットの活動見学と交流を希望されて参加されました。



3月

地場産小麦を使ったパン作り

昨年に引き続き、地場産小麦を使ったパン作りを町内の加工施設で行いました。今回は若いママさんが主催。

会員で調理師免許の資格がある方に講師をして頂きながら行いました。託児がありましたので交流・親睦が図れました。

今後の予定

今までは移住者ネット内だけの活動でしたが、H&C財団の助成金で町のイベントに積極的に参加出来たり、幅広い活動が行えました。また託児に補填ができ、子育て中の若い人たちも活動がしやすくなり加入者も増えました。

顔を合わせる事もなかった移住者と知り合い、一緒に楽しく活動したり話を聞くことにより、各自が「同じ悩みを持っているのは私一人じゃないのだ！」という大きな支えが出来、発想の転換に繋がりました。そして活動に参加された方からは、清里町から離れてしまう人が現れませんでした。

地域には独自の文化や個性があります。イベントを通して清里町の事が以前よりもわかり、再認識するいい機会になりました。無理のない範囲での集まりと活動を行い、関連機関と連携・協力し、地元のイベントの参加や出店などを行いコミュニケーションの場を絶やさずに活動していきたいです。

移住者ネットがイベントで使う物品は、私たちが使わないときは学校や家族でのイベントに貸し出そうと思います。移住してきた方や移住したい方へ清里町の情報、移住者ネットの活動やお店の宣伝をホームページ等で発信していきたいです。夏には地場産小麦を使った「流しうどん」を考えており、これから企画します。

今春から清里町に『地域づくり協力隊』としてお二人が来られました。その方たちも他府県からいらっしゃった移住者です。頼もしい仲間であり味方ができ、新しい視点で知恵を出し合い協力しながら、ポジティブな行動でもっと楽しく前向きに暮らしていけるように活動していきます。移住者と地元住民が隔たりなく居心地よく共存できる場所づくりを目指して、次世代にも継続させていきたいです。

上:POTATO PARTYの模様
左上:開場前にスタッフで集合写真
左下:清里産の小麦のパン。ふわふわしっとり
右:箱物ツアー